

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

令和1年12月10日

釧路市議会議長 松永 征明 様

会派名 公明党議員団

代表者名 月田 光明



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	月田 光明
出張先	① 八王子市 ②川口市 ③君津市
期間	令和1年11月12日 ～ 令和1年11月15日 ( 5日間 )
用務	① 東京富士美術館移動展の釧路開催の可能性 ② 公立夜間中学校の現状と課題 ③ 長期・大規模停電の教訓等災害対応
調査(研修)結果等の概要	別紙にて報告 政務活動等報告書
備考	

注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。

2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

添付資料 活動及び調整内容要旨及び写真

東京富士美術館。

五木田聡館長、金子朗常務理事（事務局長）と面会。  
訪問の目的は、移動展を釧路で開催することは可能かどうか。  
結論としては、十分に可能とのことである。

但し、展覧会のコンセプト、規模等で費用が決まることから慎重な検討が必要とのこと。  
特に西洋絵画は、1点当たりの保険料が高額。  
数年かけて実施体制を整えながら計画を練り上げることが求められる。  
五木田館長は「でき得る限り協力します」と確約。

2022年が「まなぼっと」開館から30周年。  
何とか多くの釧路市民、また子ども達に、世界一級の美術を見せてあげたい。  
理屈を超えた感動で、同館30周年の佳節を刻みたい。  
また、釧路市の文化・芸術活動に良き触発の機会となるのではないか。

添付資料 活動及び調整内容要旨及び写真

埼玉県川口市を訪問。

今年4月に開校したばかりの公立夜間中学校を視察。

○平成29年3月に市長が設置方針を表明

2年をかけて準備を進めた

○市内の中学校には空き教室はなく（人口増加が続いている）、現在新築工事中

完成する令和3年4月まで、仮校舎（旧合宿施設）を使用

新校舎は最大240名の生徒数に対応できる規模

○現在の生徒数は日本国籍27名、外国籍40名（13ヵ国）

年齢は10代から80代まで広範囲

○教科書は中学生用を基本とするが、生徒のニーズに合わせて小学生用も使用

全て無償配布の対象としている

○ニーズ調査は文科省の補助制度を活用し、アンケートを実施

4千枚配布し千二百枚回収、387件の入学に前向きな回答を得た

○不登校等による形式卒業者や高校中退者などの潜在的ニーズは掘り起こせてはいない

○アシスタントティーチャー（通訳）を2名配置し、翻訳アプリも活用

しかし、日本語の習得にはマイナスになるのがジレンマ

○生徒の学ぶ意欲は極めて高く、教職員のモチベーションを上げている

○生徒が自発的に生徒会の発足を提案し、タイ人が会長に就任

生徒間で悩み相談やキャリア教育が行われ、多世代のプラス効果がある

他にも、礼儀・作法講座や書道講座を開いたり、ゴミ分別とかトイレの

使い方も指導するなど、日本社会で生きるための教育活動にも積極的に

取り組んでいる様子を伺った

今日は、授業参観が出来なかったが、各教室を見て回って掲示物等を拝見する中で、

充実且つ楽しい雰囲気を実感した

後は、やっぱり潜在的ニーズの掘り起こしをどうするか。

先進地として、是非良きモデルを作っていただくようお願いした。



## 添付資料 活動及び調整内容要旨及び写真

千葉県君津市を訪問。

この秋に相次いだ自然災害に関し、種々お話を伺った。

- 9月8日に上陸した台風15号では、大規模停電が発生  
最大37、700軒（同市の世帯数は38、971世帯）
- 9日から23日まで長期にわたったが大きな混乱はなかった  
下水道終末処理場は12日未明に通電され全面停止を回避できた  
同市の公共下水道普及率は5割強で、停電が長引いた郊外は浄化槽
- 自衛隊による仮設トイレ、また他自治体（3市）からのトイレトレーラーの支援も効果を発揮
- ブラックアウトではなかったため、コンビニ他生活インフラは隣接市を含めダメージは小さかった  
首都圏なので、自治体間のバックアップ体制は整っている
- 養鶏施設で大きな被害があった  
施設内が高温で断水も重なり脱水症状を起こしたのではないかと
- 浸水被害がなく、災害ゴミも極端に増えなかった
- 建物全壊14棟、大規模半壊16棟、半壊103棟、一部損壊3、431棟
- 道路・河川被害776件、市道通行止め19路線  
断水は最大13、000世帯
- 10月11日千葉県を直撃した台風19号でも停電、断水が発生  
15号に比べると被害は小さかった
- 同25日発生の大雨では道路崩落、冠水の被害が目立った

今回の経験を通して学んだ点は、

- ①他自治体からの職員派遣が早期の復旧に大きな力となった
- ②多様な電源確保対策を検討しなくてはならない
- ③支流を含めた氾濫リスクの想定が必要ではないか
- ④土砂災害危険区域の指定について県と協議しなくてはならない 等々

実は、未だ官民ともに復旧の途上とのことである。

一方で、『私たちも市民も、一連の災害で我慢強くなれたかも知れません』と、広い意味で  
応戦力が養われたと述懐されていた。

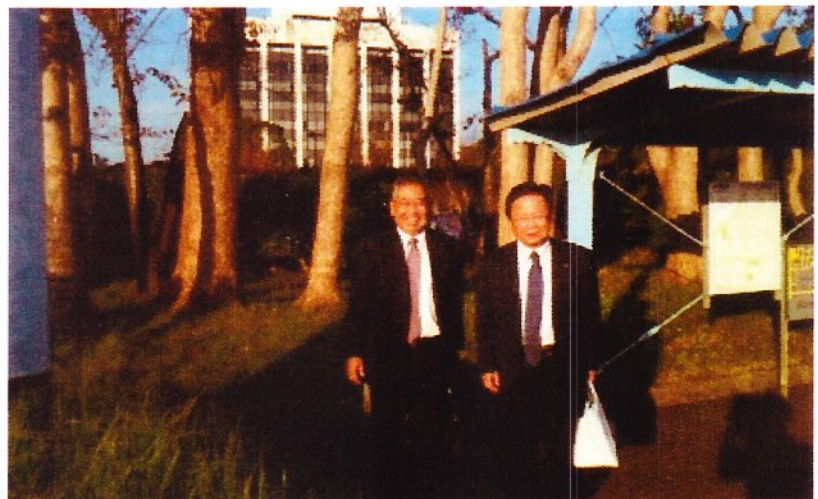
添付資料 活動及び調整内容要旨及び写真



東京富士美術館



川口市公立夜間中学



君津市役所前